

播磨まちかどニュース

With いなみ野学園

瓦版



兵庫県いなみ野学園では、大学院生などの受講生が自主制作として、地元ケーブルテレビ局「BAN-BANテレビ」と協働し、テレビ番組「播磨まちかどニュース With いなみ野学園」を制作しています。学園内外の魅力的な活動を映像で紹介する15分の番組です。瓦版では、これまでの配信動画の内容を紹介しています。

★★最新の配信動画★★

現在、いなみ野学園ホームページに掲載している動画をご紹介します。

播磨まちかどニュース with いなみ野学園 94 ◆配信日：令和7年3月1日◆

I. 地域活動功労者表彰式(くすのき賞・こうのとり賞)

II. 卒業記念作陶展(いなみ野学園陶芸学科53期生)



今回は2つの話題を取り上げます。1つは、地域で活躍された方、グループの顕彰式のこと。もう1つは、いなみ野学園陶芸学科の「卒展」の話題です。

《 I ・地域活動功労者表彰式 》



先ず始めは、2月4日(火)に行われた「地域活動功労者」の表彰式の模様です。県の加古川総合庁舎の5階会議室を会場に、東播磨地区で地域社会や郷土づくりなどに貢献されたみなさんに賞が贈られました。これには5つの賞があり、「兵庫県自治賞」、「兵庫県こうのとり賞」、「兵庫県くすのき賞」、「のじぎく賞」、「みどりの賞」の5つで、その内、「くすのき賞」には、いなみ野学園番組制作委員会代表の高田繁範さんが、「こうのとり賞」には、稲美町の松原宏子さんが受賞されました。お二人とも、いなみ野学園の研

究生です。



いなみ野学園ビデオ制作委員会のメンバー



番組制作委員会が受賞した「くすのき賞」は、「ボランティア活動などを通じ人間連帯の輪を広げ、心豊かな地域社会、また、職域づくりに貢献された団体に贈られる賞」です。そして、「こうのとり賞」は、「自律の心に根差し、参画と協働により、地域づくりに貢献された方に贈られる賞」です。野北浩三東播磨県民局長からみなさんに賞が授与され、県会議員、市会議員の方々も式に駆けつけてくれました。

番組制作委員会は、これまで100本近くの15分間番組を作ってきて、BAN—BANテレビで8年間ずっと続けて放送されています。松原さんも長年地域で「傾聴ボランティア」の活動を続けてられています。どちらも本当に素晴らしいですね。これからも是非続けて行って欲しいものと思いました。

《Ⅱ・卒業記念作陶展》



次にもう一つ、いなみ野学園陶芸学科第53期生の「第38回卒業記念作陶展」です。2月5日（水）東播磨生活創造センター（通称「かこむ」）の1階で開催されました。

4年間陶芸学科で全過程を終了するに当たり、4年間の集大成とも言える作品発表会です。10時から「開場式」があり、寺山陽三学級委員長の挨拶がありました。

寺山さんは「地域の方々に見ていただき、陶芸の魅力を知っていただければうれしいです」と話されました。続いて神足（こうたり）孝明いなみ野学園副学園長の挨拶です。神足副学園長も、「4年間でこれだけの作品が作れるのかと驚くばかりで、これら作品が即、販売できるのではと思う力作揃いでした」と述べられました。最後に竹谷貴子東播磨県民局県民躍動室長が挨拶をされ、「陶芸を通して地域とつながり、豊かな芸術知識を活かして地域の絆を深めてください」と話されました。



式の後、卒業生12名、専修生4名、計16名のみなさんの作品が並ぶ出展会場（1階展示室）に移動。花器や壺、皿、オブジェなど一人5点から9点もの数多くの作品が展示され、鑑賞者からも「見応えがあって素晴らしい作品ばかりですね」、「4年間の歩みが感じられる力作揃いですね」などの声が上がっていました。本当に素晴らしい出来栄のものばかりでした。



最後にインタビューに答えて、寺山委員長は「NHKの番組「スカーレット」で信楽焼の主人公に刺激を受けて、じゃあやってみようと陶芸学科に入った」とのこと。また、「作った茶碗とコーヒーカップを今も愛用している」と。



もう一人、卒業生の安川信子さんもインタビューに答えて、「陶芸を何となく始めたが、今はハマって陶芸が大好きに。卒業後も家で陶芸活動を続けたい」と話されていました。

最初の挨拶で、寺山委員長が「陶芸と言うものづくりに励んだ時間を忘れずに、今後も

何かにチャレンジし続けたい」と話されていました。これからも陶芸を続ける人、また新しいことを始められる方それぞれに、今後もチャレンジして行ってほしいものですね。どうぞみなさんががんばってください。

(ナレーション：大前小夜子)



播磨まちかどニュース with いなみ野学園 95

育てて楽しむ！ ジャガイモ定植と土づくり体験



◆配信日：令和7年3月16日◆



続いては、「保田ぼかし」の堆肥づくりを紹介しましょう。

「保田ぼかし」は、いつでも、どこでも、誰でも、安価に、そして生態系に影響するものは一切使っていないぼかし肥料です。名前の通り、神戸大学名誉教授保田 茂先生が提唱される「保田ぼかし」は、これを使って、何より効果が出やすく、じっくり長持ちするのが特徴と言われます。また、植物を植え付けた後でも、生育を促すタイミングでも与えることができるとも言います。そして初めの「いつでも、どこでも、誰でも、安価に作れること」など、メリットの多い肥料です。それなら是非その肥料の作り方を教えてもらおうと、体験してみました。

加古川市野口町水足にある兵庫生きがい創造協会高齢者園芸センターの農園で、令和7年2月21日（金）に行いました。

今回、指導してくださった先生は松原宏子さん（いなみ野学園研究生）。

松原さんご自身、この「保田ぼかし」を始めて丸8年、9年目に入るベテランです。その先生の指導をしっかりと聴いて、生徒のみなさんも見様見真似で、でも楽しく活動されていました。

始めは分量と混ぜ方の説明。米ぬか6、油粕3、魚かす（魚粉）2、カキ殻石灰1に、水2杯を入れ、よくかき混ぜる。1杯はお風呂のひしゃく（1300CC）分です。そば打ちをする時のようにしっかりと混ぜる、それがコツ。しっかりと混ぜたかどうかは、手で軽く握って固まりの真ん中に指を入れる。それで崩れなければOK（水分34%の完成）。





次の作業は袋詰め。丈夫な袋に入れて空気をしっかりと抜く。ポンポンと叩くのがコツとのこと。袋に日付を書き入れて、冷安室に入れて保管。冬場は4週間ほど、夏場は2週間ほど乳酸発酵させて、いい匂いがしたら完成とのことでした。



こうした手順を教えていただき、2回目は生徒のみなさんでおさらいを兼ねて、再度、

ぼかし作りにトライ。二度目はさすがに要領も得て、生徒のみなさんもスムーズにできていました。

最後に、この「保田ぼかし」を作った生徒のみなさんにインタビューし、

- 「パンづくりのように下から持ち上げる感じ、それが面白かった」
 - 「砂遊びの時のような楽しい体験でした」
 - 「混ぜる中で段々といい匂いがしてきて心地よかった。メモをしながらで、行程がよくわかりました」
 - 「混ぜ方は初めての体験。いい香りがして、これなら野菜も喜びそう」
 - 「肥料はみな、口に入れても大丈夫なものばかり。家庭菜園にも使ってみたい」
- 以上のような感想でした。



指導の松原さんご自身は、この「保田ぼかし」をじゃがいもや夏野菜、また玉ねぎ用に長年使ってきて、しっかりといい野菜が作れていると話されていました。「市販でも売っているようですが、やはり自分で混ぜて作れば安くできます」と。是非、みなさんも「保田ぼかし」に挑戦してみませんか。

(ナレーション：吉川 千代子)

【いなみ野学園 動画配信ホームページ】

https://www.hyogo-ikigai.or.jp/ikigai/video/video_inamino_summary.html

《編集・発行》

いなみ野学園 ビデオ制作委員会 (いなみ野学園大学院講座・研究生) ☎ 079-424-3342

